２０１１年１０月２８日

洋らん部会としての要望並びに活動方針

（社）日本花き生産協会　洋らん部会
部会長　茂木　敏彦

我々生産者は卸売市場、買参人とは共存共栄の関係でありひいては花卉業界全体が発展して行く事を希求しております。

しかし、最近の花卉生産は販売価格の低下、生産資材の値上がり等経営環境はますます悪化するばかりです。そんな状況下市場手数料の値上げが行われようとする動きがあります。このような時我々生産者は状況を正確に把握し一致団結して行動を起こす必要があると考えます。

◆市場手数料に関する要望

経営難を理由に市場が手数料の値上げを考えているようだが生産者は市場が倒産しては困るのだから手数料の値上げに絶対反対なのではない。

１．市場の統廃合、完納奨励金と出荷奨励金（もはや時代遅れの制度であり、もらえる人ともらえない人があり不公平）の廃止等々コスト削減に努力していただきたい。

２．様々な市場でもって商品を売買する場合、通常参加者双方から手数料を取るのが常識であるが生鮮品の市場は今もって生産者からのみ手数料を取っている、これは常識外れではないか。買参人も市場を利用し商品を仕入れているのだから市場の運営コストを負担するのは当然と思うゆえに買参人からも手数料を取る仕組みを作ってゆこう。（今まで、取っていなかった買参人から手数料を取るのは市場、買参人の抵抗が非常に大きいと思われるので、手数料自由化とは逆行することになってしまうが法律で決めていくように働きかけよう。）

３．国及び各都道府県の市場の運営方針などを議論する審議会に生産者の意見がほとんど反映されていない、そもそも生産者がほとんど参加していないのが現状である。この仕組みを改め、生産者がもっと参加し意見を言える審議会にすべきです。

◆洋らん部会の活動方針と目標

１．生産者は団結して継続的に我々の主張を行政・市場・買参人等に訴えてゆく。

２．花卉産業の将来のため「花卉の振興に関する法律」の制定を要望する。

３．消費拡大のための資金を捻出する方法を継続して模索してゆく。

（双方から手数料を取ることにより結果として市場の手数料収入が増加し、経営の安定を図ると同時にその一部を花卉の消費拡大の資金として蓄積し有効に活用する方法並びにその組織を確立することを目指す。卸売市場、買参人、生産者の三者が協力して消費拡大を推進することにより共に繁栄し花卉業界が大きく発展してゆくことを目標とする。）

４．様々な情報を部会員全体に正確に素早く周知する体制を確立する。